

第9回インテリアプランコンテスト二次選考の結果発表

第9回インテリアプランコンテストの最終選考(二次選考)の結果発表です。

※下記にて作品写真と氏名を、発表しております。

今回は、総応募総数98件の中から、先日の一次審査通過者(10名)による
模型審査になります。

大変な力作の出品、ありがとうございました。

表彰式は、平成28年2月24日(水)15:00~を予定しております。

式場は、大阪市住吉区苅田の「苅田記念会館」

受賞者の方には後ほど、正式にご案内させていただきますので、お待ちください。

今回、残念ながら受賞できなかった方の作品は、“空間工房ブログ”(当社HPにリンク有)にて、
後日、紹介させていただきますので御参照願います。

最優秀賞

氏 名:太田 奨吾さん

作 品 名:ひろがる土間庭

コ ン セ プ ト

玄関からバルコニーをひとつにつなげる「土間庭」

そこは家族のリビングや子供の遊び場となる、

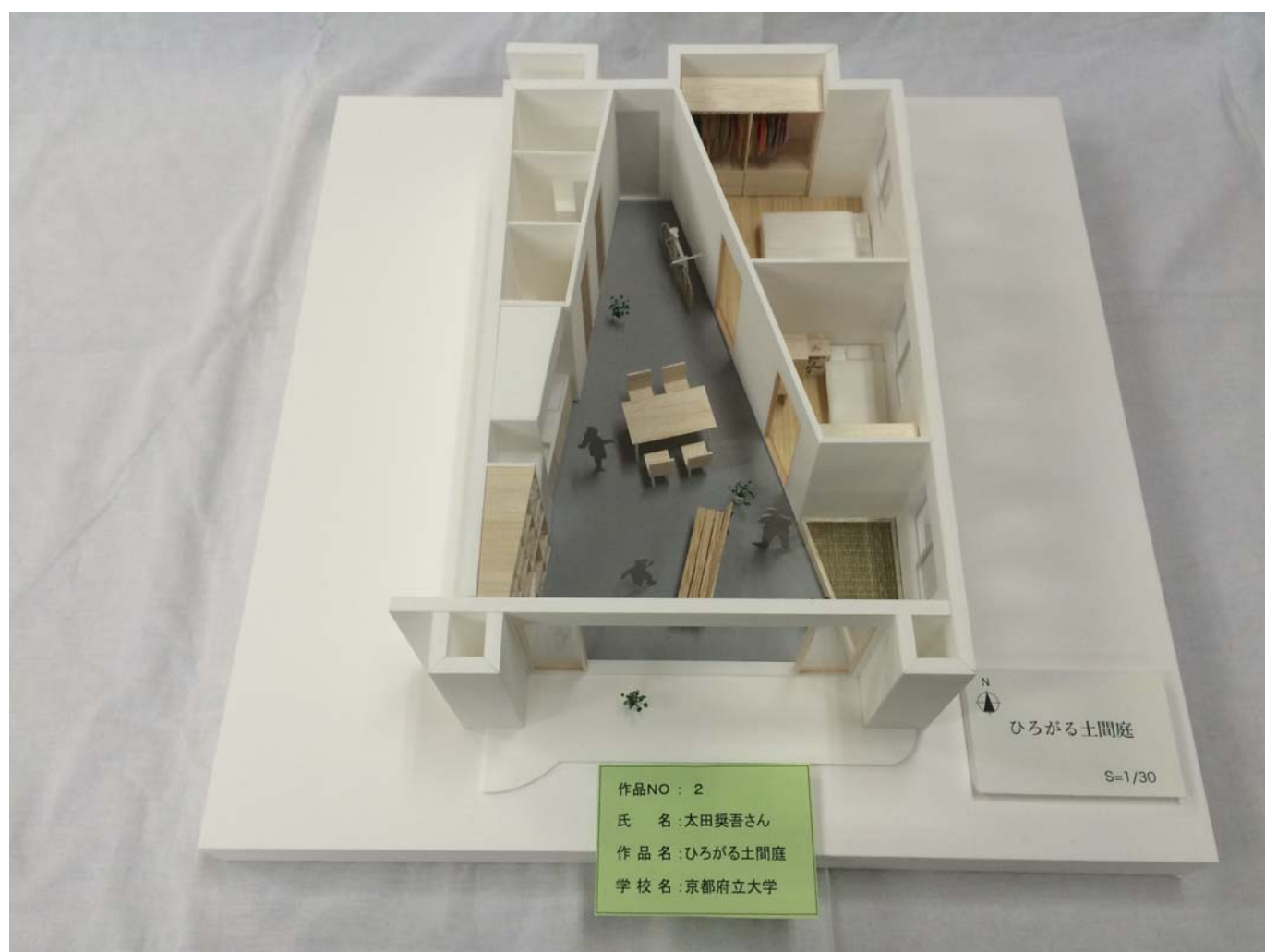
外部空間につづく中間領域である。

「土間庭」で家族は多くの時間をともに過ごすことで
お互いの変化や成長を身近に感じることができる。

開放的で多様な暮らしがあふれ出す、

そんな居心地の良いすまいを提案する。

模 型

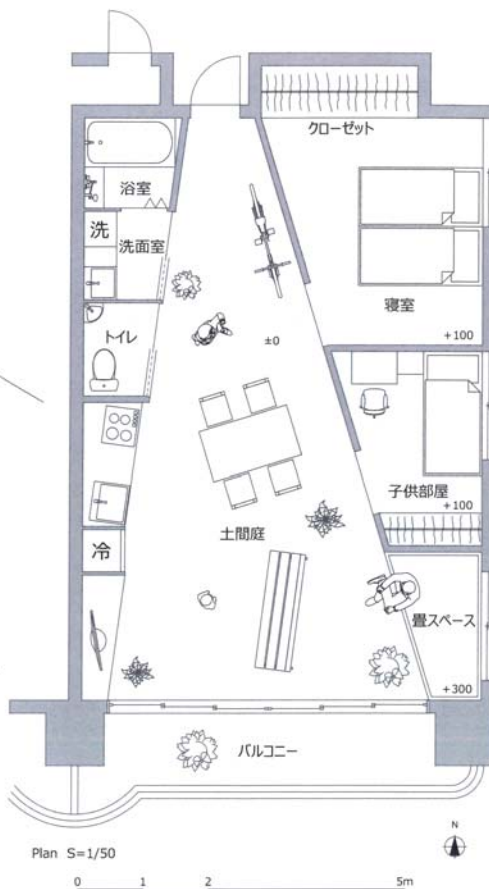
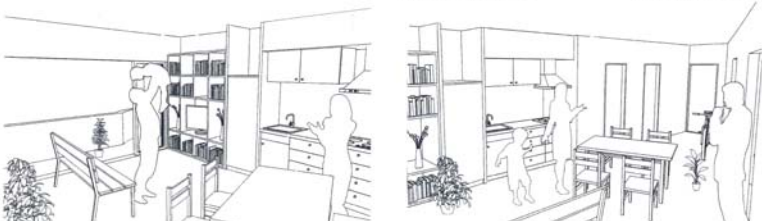
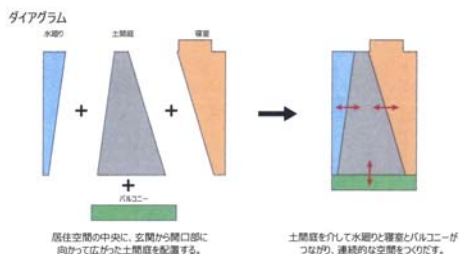


図面



ひろがる土間庭

玄関からバルコニーをひとつにつなげる「土間庭」。そこは家族のリビングや子供の遊び場となる、外部空間につづく中間領域である。「土間庭」で家族は多くの時間を共に過ごすことでお互いの変化や成長を身近に感じることができる。開放的で多様な暮らしがふれ出す、そんな居心地の良いすまいを提案する。



優秀賞

氏名: 和田 雄祐さん

作品名: The Wall for All

コンセプト

住居における「隔たり」について考えた。部屋と部屋とを隔絶するだけの1枚の壁を始点に以下のような機能を有する壁、そしてその壁を中心に据えたインテリアプランを提案する。

模型

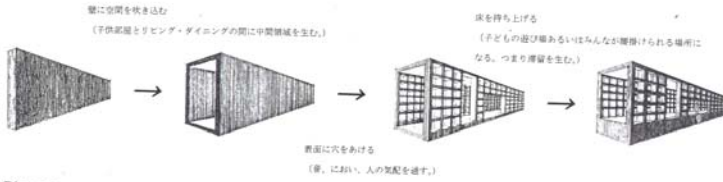
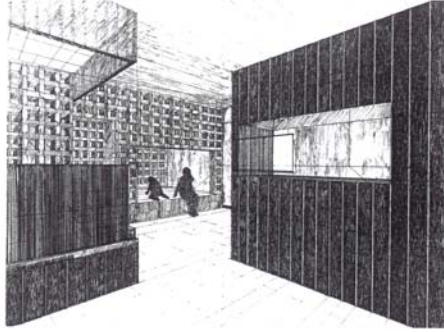


図面

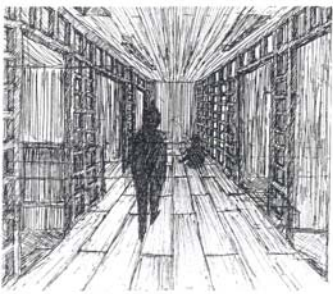
The Wall for All

住居における「隔たり」について考えた。
 扉扉と扉扉を隔たすだけの1枚の壁を軸点に以下のよ
 うな機能を有する壁、そしてその壁を中心に据えたインテリア
 アプランを提案する。

1. 視覚的にはおおよそ遮られていながらも家族同士の気配は
 感じられる。
2. 家族間のコミュニケーションを促進する。
3. 子どもの成長に応じて徐々にプライバシーが確保される。



Diagram

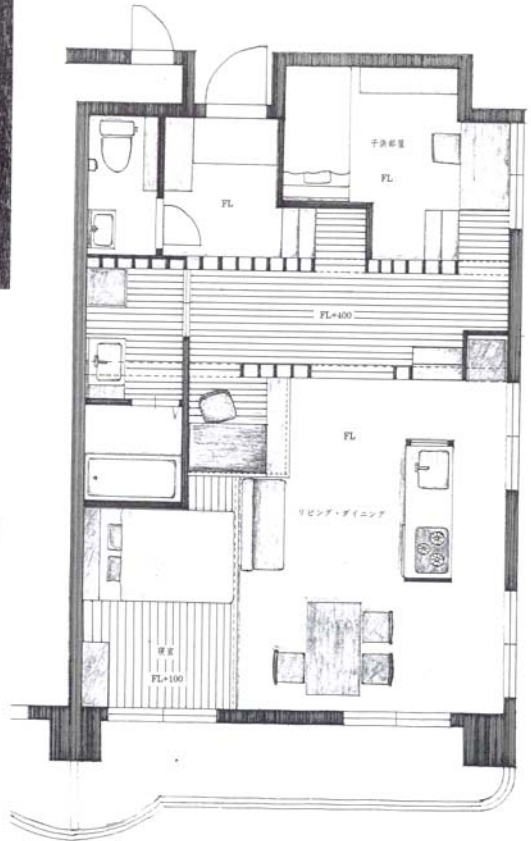


厚みを大きく(200mm)設定したガラスが2層あることで、子ども部
 屋とリビング・ダイニングスペースとは視覚的にはほとんど遮られてい
 るが壁・におい・人の気配に対しては開いている。

棚としての機能も有するこの壁には家族各人の所有物が収納され
 ため、壁は壁に置かれている(隠られている)物からその時々の子
 の興味や関心事について感じ取ることができるだろうし、逆に子が親の
 物の名前などを見て新しい分野に興味を惹きつけられるかもしれ
 ない。これも一種のコミュニケーションである。

成長と共に増えてゆく子の所有物は徐々に壁を埋めてゆき、それ
 によって、小学校低学年から思春期にかけて高まるプライバシー要求
 の変化に対応してプライバシーが確保されてゆくことになる。

親と子とを隔てるだけであつた壁が、親と子の良好な関係
 を育む豊かな「壁」となる。ここに居住する家族全体の幸せ
 な生活を心から願っている。



PLAN 1/50

優秀賞

氏 名: 廣部 早紀さん

作 品 名: 趣味でつながる はじまりの家

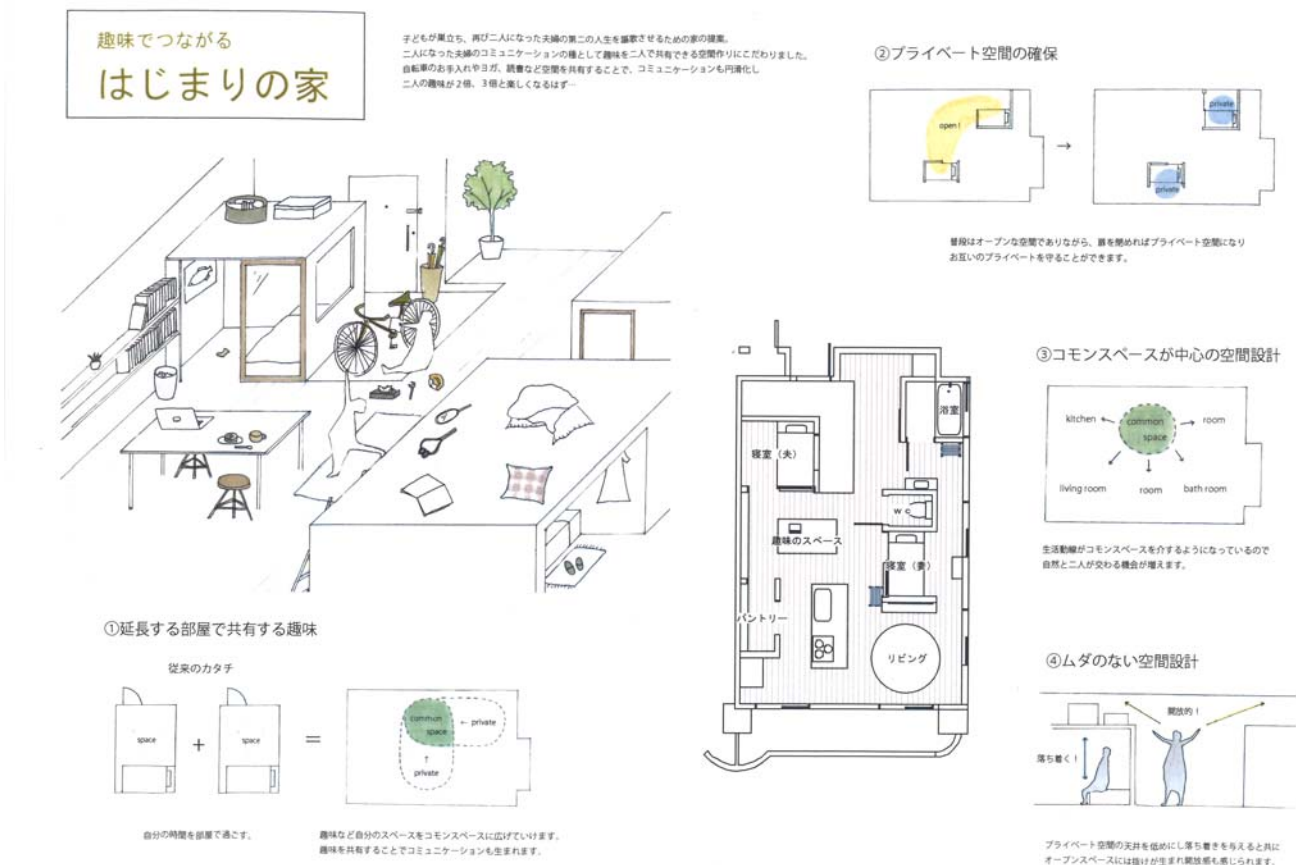
コ ン セ プ ト

子どもが巣立ち、再び二人になった夫婦の
 第二の人生を謳歌させるため、趣味を二人で
 共有できる空間にこだわった家の提案。

模 型



図面



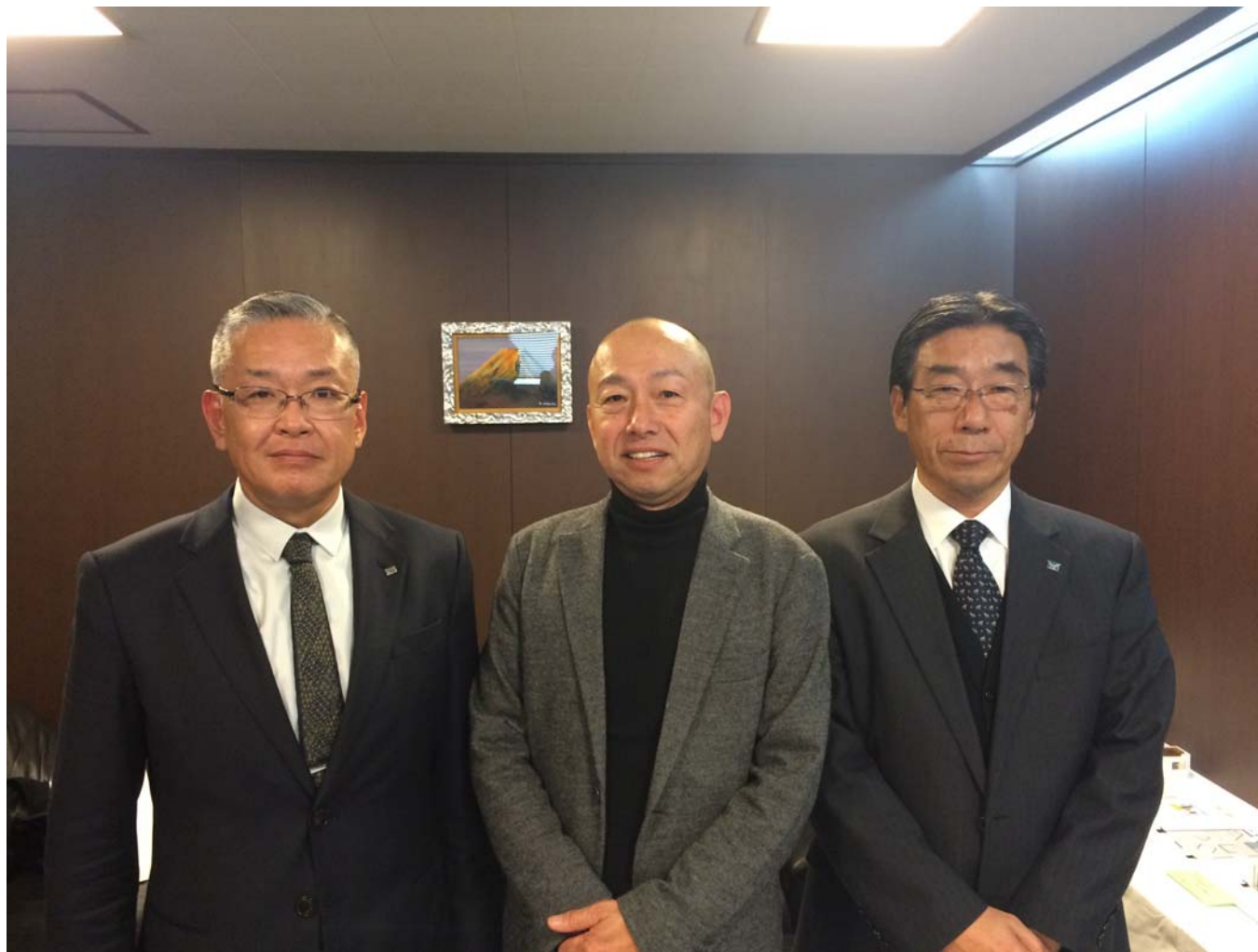
審査委員の紹介

左より

委員 松本彰人(株式会社 松本空間工房)

委員長 西濱浩次(株式会社 コンパス建築工房)

委員 柏原成治(株式会社 松本組)



審査風景



以上